

後援会長挨拶

東京都市大学は、武蔵工業大学から校名変更すると共に、新たな学部も創設され、総合大学として大きく羽ばたきました。校名変更から2年目となる今年は、真価の問われる年と注目しておりましたが、受験者数も伸び、順風満帆な船出として嬉しく思っております。

さてこのように、注目している事象や政権交代、市場経済の動き等のダイナミックな変化というものは敏感に感じる場所ですが、一方、日常の些細な変化、例えば地球環境や人間の成長、町並みの日常変化等はなかなか気づきにくいものです。

フランスに伝わる寓話に、「ある日、池の上に大きな蓮の葉が1枚浮かび、2日目には2枚になり、3日目には4枚、4日目には8枚になるというように増えていき、29日目に池の半分が葉に覆われた。池すべてが覆われるのはいつか?」という話がありますが、ご存知でしょうか。答えは申すまでもなく30日目ですが、この話は「29日目の池の景色は、普段と変わらないように人々の眼に映っていた。」と続いていきます。緩やかで、静かな変化は、よほど注意深く見ていないとわかりにくいということなのです。

日々の些細な変化や成長の小さな誤差は、将来大きな変化や見方で判る差異に繋がります。企業は、小さな変化にも注意し、情報収集・分析を基に弛まない努力を積み重ねて成長戦略を展開していきます。その結果、企業間により、相当な格差が生じてくるのです。一方、学生はというと、日々の正課外の活動を通じ、日々成長する機会を得ていますが、その成長は本人も気づかず、また回りも気づかないものであります。

学生の皆さんには、学生の本分を忘れずに日々の積み重ねが重要であるということ、また同時に、些細な環境変化にも敏感になるアンテナを持っていただくことを期待します。学生の皆さんが、「29日目に偶然通りかかった変化」を見過ごすことなく、緩やかで、静かな変化を感じ取り、その結果として日々の正課外の活動が将来大きな成長に結び付くよう、後援会は諸活動を通じ、学生の皆さんをサポートし見守っていきたいと思います。



東京都市大学後援会
平成22年度会長

堀内 忠